


政策学部



龍谷大学  
RYUKOKU UNIVERSITY



2016  
Ryukoku  
University  
Faculty of  
Policy Science





# You, Leader

## Challenge Story

政策学部チャレンジストーリー

学生たちがチャレンジして成長していく物語。

龍谷大学生は、秘めた情熱を持っている。

彼らは勇気をもって、新しい世界に飛び込んでいった。

失敗することもある、挫折することもあるだろう。

でも、自分を信じて、周りの人に支えられて乗り越えていく。

チャレンジすることで、自分の可能性が無限に広がるのだ——。



この人たちと一緒に何かしたい。  
その思いが新しい絆を生んだ。

01 高齢者の生きがいづくりにチャレンジ

小山 毅さん

政策学科 3 年生 大阪府 興國高校 出身

小学校の時は柔道、中学・高校ではレスリング部でインターハイ出場(団体)を経験。大学ではテコンドーサークルにも参加している。Ryu-SEI GAPでは新チーム「LOCAL ACTIVITIES」を立ち上げ、初代リーダーとして活動を軌道に乗せた。





You, Leader

## 社会の課題に解決策を見出すのが政策学。 自分と社会のかかわりが見えると面白くなる。

ある土曜日の午後のこと。京都市伏見区にある多世代交流拠点「きょういく基地」では「大学生との語り合いイベント」が開催されていた。企画したのは、政策学部の学生が主体となり地域社会の課題解決に取り組む実践型プログラム「Ryu-SEI GAP」のチーム「LOCAL ACTIVITIES（地域の高齢者と活動する!）」のメンバーたち。進行を担当する学生が「テーマは初恋です!」と言うと、それぞれが記憶のなかの甘酸っぱい記憶をたぐりよせていく。「初恋」というテーマを語るのに年齢差など関係ない。シニアの人が初恋の女の子とのデートの失敗談を語り始めると、全員が話に引き込まれていった――。

小山毅さんは、「LOCAL ACTIVITIES」の初代リーダー。「きょういく基地」に集まるシニアの人たち、そしてチームのメンバーから厚く信頼される存在だ。ところが、政策学部を選んだ理由を問うと、「就職に結びつきそうな学部だと思ったから……。入学当時は、雰囲気の良い学部だと思っていたながら受動的に授業を受けていました」と振り返る。

しかし、ほどなくして小山さんは政策学

の面白さに気づいた。きっかけになった授業は、1年生の時に受講した深尾昌峰先生の「現代社会の市民性を学ぶ」。市民が主役になって地域課題を解決している事例を学び、「環境問題や地域の持続可能

性等、多種多様な課題に対して解決策を見出していくのが政策学。自分もまたその主役なのだ」と理解したのだ。

「政策学とは何か」を知って感銘を受けた小山さんは、大学での学びに対しても







## かかわる人たちの笑顔を見て、 自分の“微力”に気づくことができた。

主体的になっていった。1年生の秋には「Ryu-SEI GAP」に参加。事前学習として行われる合宿で「地域課題をどう解決したいのか」を考え、友人とともに新チーム「LOCAL ACTIVITIES」を結成。当初は多世代交流をテーマに活動を開始した。

しかし、新しいチームが軌道に乗るまでに、小山さんは何度も壁にぶち当たった。活動の資金を得るために、助成金申請や報告書の提出等をはじめの仕事にも挑戦した。さらに、紆余曲折の末にターゲットを多世代から高齢者層に絞り込んだものの、ふだん接点のない高齢者の生きがいかわからない。小山さんは、政策学部が協定を結んでいるNPO「きょうとNPOセンター」に相談。きょうとNPOセンターが管理している「京都市伏見いきいき市民活動センター」で行われているシニア向けの体操クラスに通うことにした。そこで、小山さんは「高齢者は元気がなくて、家に引きこもっている」という先入観を吹き飛ばされた。

小山さんが出会ったのは「元気でめちゃくちゃしゃべるシニア」。そのエネルギーに圧倒されながら、小山さんは「この人たちと一緒に何かしたい」という思いを

抱くようになったという。現在は、月2回の体操に加えて月1回の若者との交流イベントを開催。ヨガや歌声喫茶、落語等のイベントも行う。「体操の日も、学生と高齢者の方々が一緒に楽しく体を動かすことができました。『ここに来る時間が一番楽しい』と言ってもらった時にはすごく嬉しかったです」。

2014年には、新しく「おにぎりプロジェクト」で「高齢者雇用」という課題にも取り組んだ。きっかけは、体操に参加するおばあちゃんたちにつくってもらった「個性豊かで、デザインもすごいおにぎり」。「おばあちゃんの作るおにぎりは、コンビニのおにぎりとは違う価値がある」と確信した小山さんたちは、深草キャンパス内のカフェ樹林前にテントを出して販売することを計画したのだ。おばあちゃんたちには、120セット(240個)のおにぎりをつくってもらおうよう依頼し、学内に招いて販売も一緒に行った。「政策学部の人たちにSNSで告知をただけだったのですが、販売をスタートする12時には列ができていてあっという間に完売。何よりも、おばあちゃんたちが『楽しかった』と言ってくれて良かったです」。

現在、「LOCAL ACTIVITIES」には17人が参加。「Ryu-SEI GAP」のチームとしても大きく成長した。「この活動を通じて、深尾先生が言われていた『人は無力ではなく微力だ』という言葉を実感しました。対象者の声を聴いて、喜びを見て、自分の“微力”を感じることができたのです」と小山さん。「Ryu-SEI GAP」を通して、シニアの人たちから社会人としてのスキルを学び、また社会人に対して自分の考えをプレゼンして伝える力も身につけたという。「政策学部は、自分を変えるチャンスがたくさんある学部。そしてチャレンジすればするだけ、新しい自分を見つけることができます」。全力で4年間を過ごしたからこそ言える、後輩への力強いメッセージだ。

### Ryu-SEI GAP (龍谷大学政策学部 Glocal Action Program)

政策学部の学生が主体となり、地域社会の課題発見や解決に向けての企画立案から実行までを体験する実践型プログラム。特定非営利活動法人きょうとNPOセンターとも提携。





You, Communicator



02 英語を活用した取り組み  
にチャレンジ

柳井 真衣子さん

政策学科 2 年生 大阪府立池田高校 出身

2013年、政策学部で実施された協働学習プロジェクトにメンバー最年少の1年生で参加。英語をツールとして、ドイツ・ドルトムント工科大学、龍谷大学・大学院の学生たちとともに地方都市の課題解決に取り組んだ。



## 京都について学び、その知識をグローバルな場で活かしたい。

「これがわたしのやりたかったこと！絶対に参加しようと思いました」と柳井真衣子さん。中学・高校時代から得意だった英語を活かせる活動をしたと考えていた柳井さんは、ドルトムント工科大学との協働学習プロジェクト参加者募集のチラシを目にした際、このプログラムの内容に大きな魅力を感じたという。2013年10月から約10カ月間、政策学部で初めて実施されたこのプロジェクトは、両大学で都市計画を学修する学生が互いの国、大学を訪ね、英語を共通語として特定の地域が抱える課題について現地調査やグループワークを行うものだ。

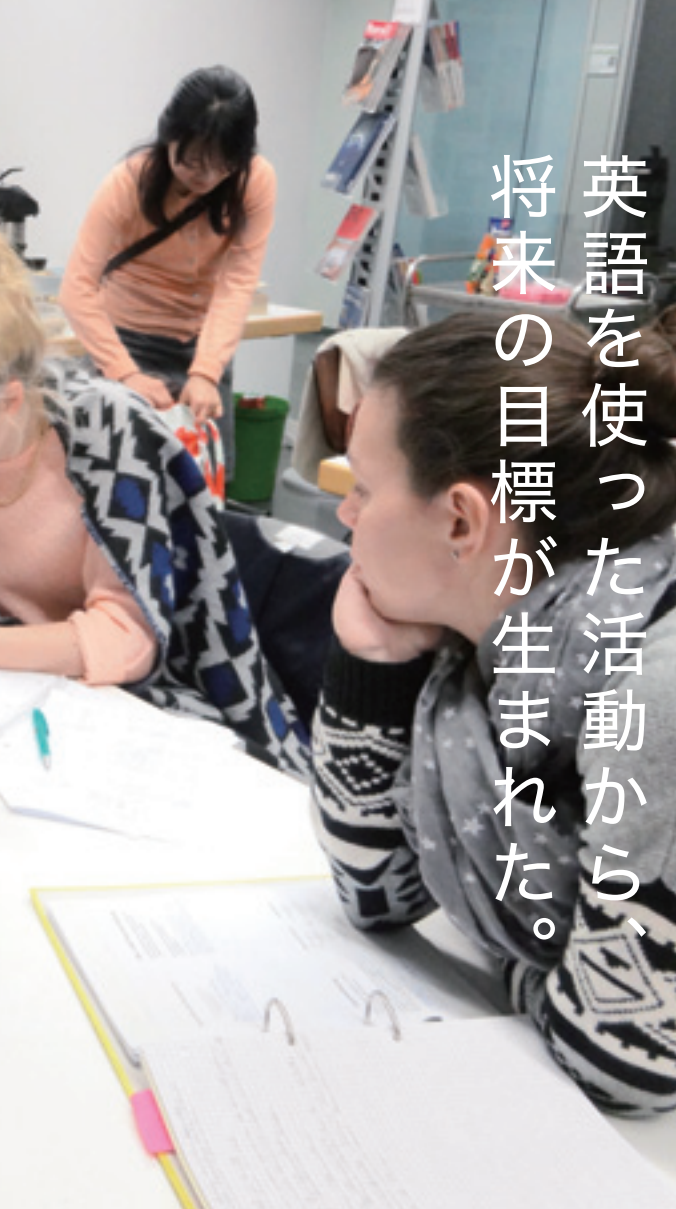
面接審査を経て、集まった龍谷大学の参加者は1年生から大学院生まで9名。そして2014年2月には、ドルトムント工科大学から13名の学生が

龍谷大学を訪れた。「ドイツの学生と対面すると緊張してしまい、自信のあった英語がほとんど使えませんでした」。しかしプロジェクト以外での交流が状況を変化させた。京都観光や食事に案内するうちに、次第に気持ちが高くれた。緊張がとけるとともに、会話も弾むようになっていた。「自分では気づかなかったのですが、2週目頃からはプロジェクトの場でも活発に議論できるようになっていたと、指導担当の先生が言ってくださいました」。

フィールドワークでは福知山市と尼崎市を訪問し、町の活性化、空き地の活用のための調査を実施。また3月には龍谷大学の学生がドルトムント工科大学に赴き、城がのこる田舎町のアルテナ、工業地帯のデュースブルクで同様に調査を行った。フィールドワーク







英語を使った活動から、  
将来の目標が生まれた。



Challenge Story



後のグループワークでは、柳井さんは自分の生活からの視点で意見を述べたという。当時1年生だった柳井さんは、都市計画の勉強をはじめたばかり。ほかのメンバーに比べて、専門知識は少なかっただろう。しかし1年生なりの意見も、メンバーは受け入れてくれた。一方で、先輩たちが学修に取り組む姿を間近に目にし、その知識に触れたことは、この先の学修イメージを明確にする好機となった。「都市構造やデザインを考える場合には、必ずその対象地域の歴史や地勢、交通面等、幅広いテーマから調べ、理解することが必要。都市計画の勉強をすることは、ひいては社会全体について学ぶことなのだ」と、協働学習プロジェクトを通して知りました。

また、京都でドイツの学生を案内し、

ドイツではドルトムント工科大学の学生に厚くもてなされたことは、将来の職を考えるきっかけになった。「日本に来た観光客や留学生、日本で生活する外国人が心地よく過ごせるような手助けがしたい。同時に日本のことを海外にPRしたいと考えるようになりました」。協働学習プログラムでのさまざまな経験はリンクし、一つの指針となった。柳井さんは今、日本有数の観光都市であり、また龍谷大学のある京都についてより深く学びたいと、都市計画や観光政策について学べる阿部大輔先生のゼミに入り、学修をすすめている。

さらに、学業以外でも英語を使える場所を求め、英語でミュージカルを演じるサークルB・Wに所属。「ロシア人、ベトナム人、韓国人等、留学生も多く、いろいろな価値観に触れられるのも

魅力です」。2014年の冬には、龍谷大学アバンティ響都ホールで『レ・ミゼラブル』を公演。柳井さんはヒロインの少女エポニーヌを熱演した。

政策学部での学びと得意の英語を活かせる将来の道に向かって、柳井さんはこれからも多様な方法で、双方の力を磨き高めていこう。

#### ドルトムント工科大学との協働学習プロジェクト

ドルトムント工科大学と協働で、互いの国の特定地域が抱える課題についてフィールドワークや意見交換を行い、グローバルな視点での提言を目指す。2014年度後期には正課科目「政策実践・探求演習ⅠB」の1プロジェクトとして実施。



# You, Facilitator

## 一人のアクションが、地域を活気づける。

高校生の頃、炭を使って気候変動を緩和し、農山村振興を目指す「亀岡カーボンマイナスプロジェクト」の活動に参加したことをきっかけに、地域活性化に興味を持ったという、田中友悟さん。折しも田中さんが大学進学する年にこのプロジェクトを推進する組織のひとつ、龍谷大学に地域活性化等について学べる政策学部が新設されると知り、受験を決めた。

入学を果たし、2年生後期からはNPOと協力して地域の課題に取り組む等の活動を行う深尾昌峰先生のゼミを選択。3年生前期には総務省から採択された「域学連携事業」で、大学と淡路島・洲本市が連携して、地域の活性化を図る取り組みを行った。田中さんは1カ月間、洲本市の民家で合宿し、地域の人たちへのヒアリングを重ねた。「地域の人たちは大型ショッピング施設がほしい等、そこに無いものに意識が向きがち。けれどわたしたちは、そこに有るものに惹かれました」。地元の食材で作った朝食のおいしさや、夕日の美しさ、近所付き合いのありがたさ等…暮らしのなかで見つけた感動に目を向けた。その結果、田中さんらゼミ

生は、洲本市に滞在し地元の生活を体験する「着地型観光ツアー」を提案。彼ら自身が体験したように、生活のなかで地域の魅力を発見し、感じてもらうのが狙いだ。ツアーは実際に龍谷大学生を対象に開催され、参加者からの喜びの感想は、地域の人たちに地元の魅力に気づいてもらうきっかけになった。「限られた期間のなかで、成果の出せる事業プランを提案することは大変でした。また、地域活性化の取り組みは短期間で終わるものではない。継続することが重要だと感じました」。

ほかにも深尾ゼミでは和歌山県印南町等と連携した、全国初の地域貢献型メガソーラー発電所「龍谷ソーラーパーク」設置事業や、有田市等と連携した「和歌山ワイナリー」事業に取り組み、利益を地域社会に還元する事業モデルの提案・運営にかかわっている。こうした大きなプロジェクトに接し、「地域の活性化や環境問題等、大きな課題と思えることで、ひとつの行動が解決の糸口になると知りました。自分にもできることがある。そう考えるようになりました」と田中さん。そして自分にできることを探すなかで、一人

ひとりの行動によって「持続可能で平和な世界へシフトすること」を目的とした団体であるワールドシフトネットワークジャパンに出会い、その目的を広めるファシリテーターの資格を取得。ファシリテーターの活動のひとつとして団体「RGC (Re:terra Greycells Cloud)」を立ち上げた。

現在はRGCのなかでも特に地域活動に関心のあるメンバーで、洲本市大森谷地域の魅力を発信する活動に着手。「継続が必要」と感じていた域学連携事業の活動を、独自に引き継いでいる。ツアーの企画運営のほか、新たに地域の豊かな湧水を活かすプランを検討中だ。

「以前はわたしも地方出身者という劣等感があり、都会への憧れがありました。しかしゼミの活動をきっかけに、地域それぞれに魅力があると知ることができました」。田中さんは地域に対する考え方が自分のなかで変化したように、住民が地域の力に気づく手助けをしている。そしてその魅力や特色が産業や観光という形となって多くの人に伝わることを目指し、これからも活動を続けていく。



地域の人とともに  
まちの価値を見つけ、  
発信する。

## 03 地域活性化への取り組みに チャレンジ

### 田中 友悟さん

政策学科 4年生 京都府立亀岡高校 出身

地域活性化への取り組みに関心を持ち、政策学部に進学。深尾昌峰准教授のゼミで淡路島、和歌山県等における地域活性化プロジェクトに取り組む。学外でも独自で団体を結成し、淡路島洲本市大森谷地域の振興のための活動を行っている。

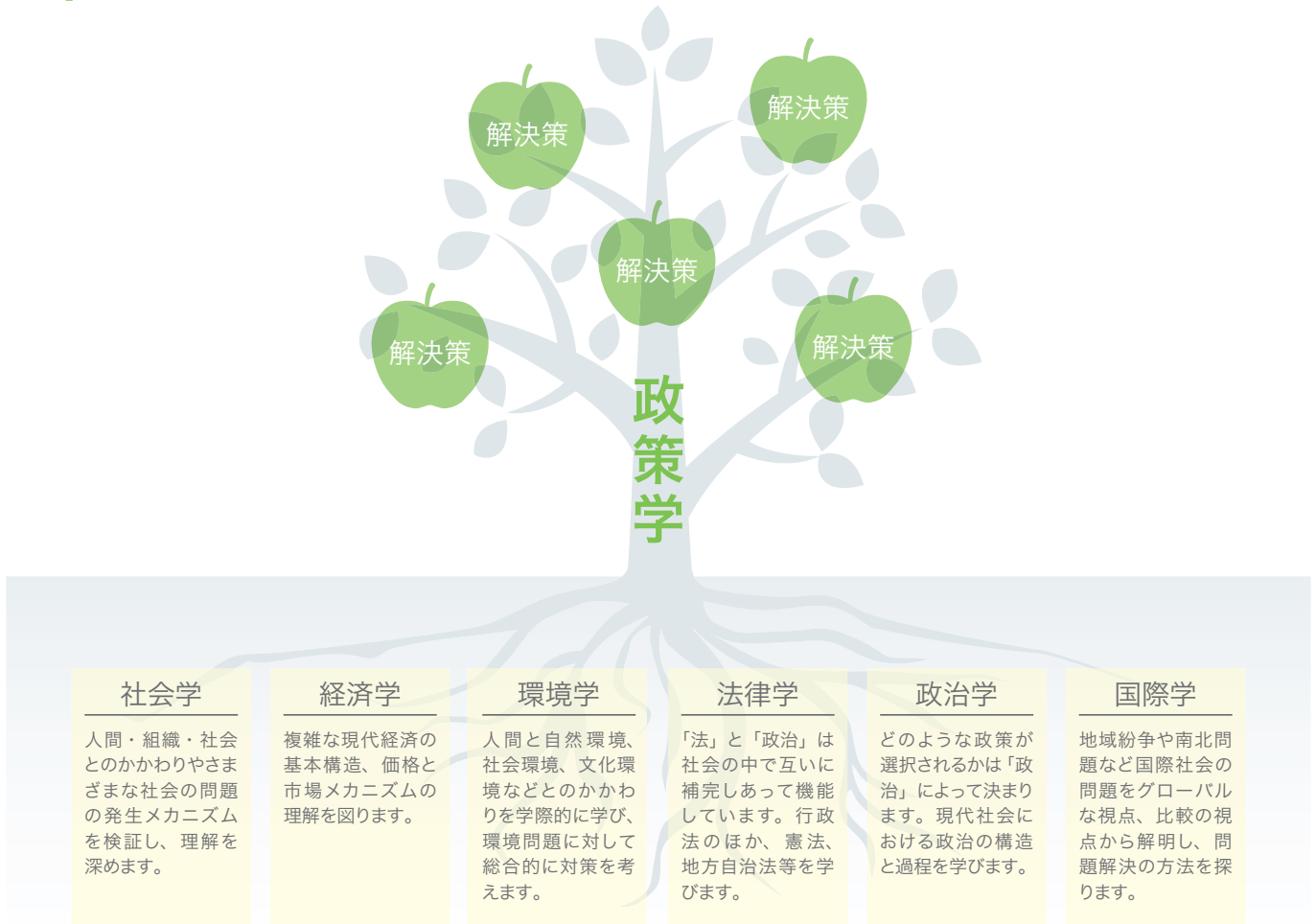
#### 域学連携事業

地域と大学等が連携し、地域力の創造に携わる人材の育成。また自立的な地域づくりを推進するための仕組みを構築し、地域活性化を図る。総務省採択事業。






## Q. 政策学とはどんな学問ですか？

A. いろんな学問分野を重ね合わせて未来をデザインする学問です。



### 多様な学びのニーズに応える3つのコース

政策構想コース	環境創造コース	地域公共人材コース
地域再生、雇用、福祉、持続可能な発展等、現代社会が抱える諸問題を解決するためには、グローバルな視点に立ちつつ、地域に足場において政策を構想することができる人材が必要です。本コースでは、地域の発展や将来展望に対する構想力、国際性、企画力を身につけます。 	地球温暖化や食糧問題等、人類的課題を解決するためには、自然環境を含めて総合的な視野に立った人材が必要です。本コースでは、環境への負荷を軽減する社会の仕組みを実現するために、政府、企業、NPO等、多様な主体と連携して課題を解決するための能力を身につけます。 	地域が抱える課題を解決するためには、自治体、企業、NPO等セクターを超えた（縦割りの文化を改めた）発想力と各セクターを結び行動力を持った人材が必要です。本コースでは、地域づくりの専門家（地域公共人材）として職業的能力、マネジメント能力を身につけます。 



# Q. 政策学部の学びの特長は？

## A. 実践的な独自の学びが広がっています。

### 強み1 現場での体験の場を用意

専攻科目「政策実践・探究演習」では、実際に地域に出向き、地域の問題や事例に基づき、具体的な問題解決に向けて、チームで学習を進めるPBL (Project Based Learning) を実施しています。また、政策学部生が地域の課題を見つけ、解決に向けて取り組むプロジェクト「Ryu-SEI GAP」や総務省採択事業の「域学連携事業」など、地域の活性化を目指して現場で実践的な活動を行うさまざまな課外プロジェクトも用意しています。教職員はもちろんのこと、地域の方にもサポートしていただきます。



### 強み2 コミュニケーション能力を磨く機会が充実！

上級生が1年生の学習・学生生活をサポートする「クラスサポーター制度」をはじめ、学生同士で交流や対話・議論ができるチャンスが充実。また「学生参加型討論会」や学会主催の「政策コンテスト」など、プレゼンテーション能力やディベート能力を磨く機会も数多く設けています。



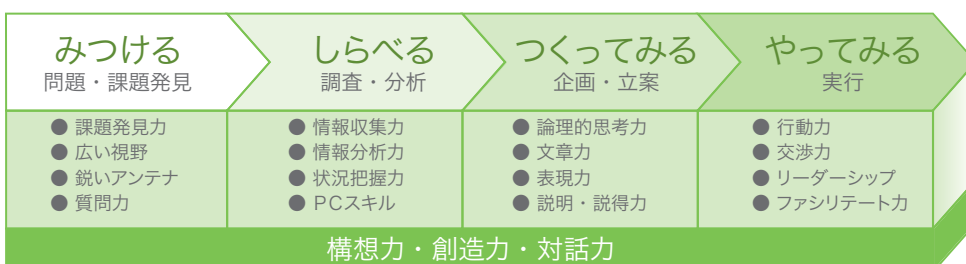
### 強み3 就職に強い学生を育てる独自のキャリア教育を展開！

本学部では、地域や企業の取り組みに直接触れる機会を設けるなど、学生が早期から職業観や人生観といったキャリアを形成できるよう、学部独自のキャリア教育を展開しています。経営者や民間企業で活躍する本学OBを招き、聴講・議論を行なうことで、学生時代の過ごし方を考える機会を提供します。



# Q. どんな力が身につきますか？

## A. 課題と現在を「越えていく力」が身につきます。



これらの能力は、政策策定だけではなく、社会生活のあらゆる場面において有効な能力です。



# 4年間のプロセス

基礎をしっかりと身につけて、学びたいことを自由に学べる。

1 年生

基礎をしっかりと  
身につける

2 年生

自分にぴったりの  
コースを選択

1 年生

- 政策を学ぶうえで基本となる科目として「政策学入門(経済学)」「政策学入門(政治学)」「政策学入門(法学)」を学びます。
- 「基礎演習I・II」で大学での学びの基本「読み・書き、語り、調べ、考える」を身につけます。
- 「政策学を学ぶ」「現代社会の市民性を学ぶ」「持続可能性と共生を学ぶ」「情報処理を学ぶ」の学ぶシリーズで基本部分を補強します。

2 年生

- 「コミュニケーション・ワークショップ演習」で参加・協働型社会に必要な話し合い能力の育成を目指します。単にグループディスカッションを行うのではなく、ワークショップ形式で、話し合いの構造やプロセスを学び、良い話し合いとは何かを考えます。
- 2年生の後期からコースに所属し専門的に学びます。

## 政策構想コース

政策課題としての社会問題は、地域再生、雇用・福祉、持続可能な発展等多岐にわたります。これらを解決するためには、世界と日本、政府と地方自治体、地方行政と地域社会等、グローバルな視点からローカル、個人に至るまで、複雑に入り組んだ関係を理解しなければなりません。本コースは、このような関係性を理解する認識能力、政策課題の解決能力を身につけ、「理論」と「実践」のバランスがとれた実社会で役立つ政策学を修得するコースです。政策構想コースには、より専門性を高めるために2つのプログラムがあります。

### ■地域・都市政策プログラム

協働型社会の実現へ向けて課題と展望を学びながら、都市や農村等地域が抱える課題を発見し、社会と連携して解決するための能力を修得するプログラムです。

### ■国際・比較政策プログラム

環境問題や地域政策等の政策課題が相互に関連していることをグローバルな視点で理解するとともに、各国の政策を比較論的な視点から検討することによって、地域から世界まで至る幅広い視点から課題解決に取り組むための能力を修得するプログラムです。



政策構想コース  
地域・都市政策プログラム  
鳥越 大祐さん 政策学科 2 年生  
(鹿児島県 出水中央高校 出身)

ふるさとの町を元気にしたいと考え、このコースを選びました。まちづくりに関するNPOの職員志望で、政策学部を選んだのも同じ理由からです。地方の活性化策として特に都市計画に興味を持っています。地方を元気にすることが日本の将来にとても大切であり、地域の人々と協働して、明るいまちづくりに取り組みたいと思います。



政策構想コース  
国際・比較政策プログラム  
福井 実里さん 政策学科 2 年生  
(奈良市立一条高校 出身)

もともと海外の動向に関心があり、視野を広げて政策を考えるため、このコースを選びました。コミュニティや都市空間、持続可能性等をキーワードに地域から日本、海外まで多様な視点から政策について幅広く学んでいます。さまざまな知識や考えを知ることができ、このコースで培った対話力や調査能力も活かしていきたいです。

## 環境創造コース

地球温暖化や食料問題等、人類共通の課題を解決し、社会全般の持続可能な発展を実現するためには、その課題が持つ総合性を踏まえ、幅広い視点に立った政策が必要です。本コースは、環境負荷を軽減する生活形態を実現するために、市民団体、企業、政府等政策主体の新しい役割を創造し、それらと連携し解決するための能力を身につけるコースです。



環境創造コース  
七里 智洋さん 政策学科 2 年生  
(滋賀県 比叡山高校 出身)

将来、環境にかかわる仕事に就きたいという目標を持っています。そのためのプロセスとして、環境について深く学べるこのコースを選びました。環境問題に対する市民参加の必要性に焦点を絞って、学んでいます。さまざまな環境問題に向き合い、環境とはどうあるべきか、わたしたちに何ができるか等、多角的な視点から問題をとらえる力がつきます。

## 地域公共人材コース

地域社会および地域政策の担い手としての職業人となるための能力を身につけます。政策課題の発見、多角的視野からの政策構想、立案、そして実施。本コースは、それらにかかわる市民、企業、自治体の政策主体としての機能を学修し、自立的に政策課題に取り組むための専門的で実践的な能力を育成するコースです。



地域公共人材コース  
平田 雅子さん 政策学科 2 年生  
(広島県立呉宮原高校 出身)

卒業後は故郷の広島に帰り、地域に貢献したいと考えています。地域密着型の政策を立案・実践できる講義内容のこのコースを選びました。地域の課題を発見し、多角的な視点から解決策を見出す方法を学修しています。このコースで身につけた能力を活かして、広島で民間と行政の両方の仕事を経験したいと考えています。

## 就職への STEP

### 【学生生活の過ごし方、学びに対する動機づけ】

1年生からキャリア意識を持って目標設定を行なうことで、大学での「学び」に対する動機づけを明確にし、学生生活の有意義な過ごし方や職業意欲を喚起します。

- 1～3年生対象「日経TEST」の実施  
ビジネスに必要な能力を測定する「日経TEST」を1年生から毎年受験し、学生の就職への意識を高めます。
- キャリアシンポジウムの実施  
民間企業を目指す学生、公務員を目指す学生が基調講演の聴講やパネルディスカッションへの参加を通して、それぞれ自分のキャリアに向かって考え、意識を高めます。

### 【キャリア意識・職業観を育成】

実社会への理解を深め、進路目標に即して求められる能力を知り、キャリアに対する意識・職業観を身につけます。

- キャリア開発科目を正課科目として展開
  - ・地場産業論
  - ・企業のCSR実践演習
  - ・社会的企業論
  - ・基礎演習I・II
  - ・キャリアデザインのための企業研究
  - ・地域公共人材論
  - ・公務員論
  - ・コミュニケーションワークショップ演習等



# 3 年生

専門性を身につけ  
社会を見る目を  
じっくり鍛える

# 4 年生

進路を見据えた学び、活動、  
そして4年間の総括

(2年生前期の時間割モデル)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限目						
2 限目	スポーツ技術学 演習(テニス)	マスコミ論Ⅰ		米国の 地域・都市政策		
3 限目	政策過程論	世界の宗教 A		交通運輸政策	比較社会政策	
4 限目	行政訴訟法	時間と空間の 科学			演習Ⅰ (松浦ゼミ)	
5 限目						
6 限目 以降						

### ■ 卒業後の進路例

(政策構想コース 地域・都市政策プログラム)

企業の企画部門／メディア系企業  
／金融・銀行／コンサルタント／旅  
行・観光／地方公務員／大学院進  
学 等

地域の発展や  
将来展望に対する  
構想力を持った  
職業人

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限目	動物の自然誌		環境経済学		欧州の 地域・都市政策	
2 限目	ヨーロッパ政治論	地域コミュニティ政策	クラスポーター活動 (基礎演習にて)	米国の 地域・都市政策	政治過程論	
3 限目		スポーツ技術学演習 (フィットネス)		交通運輸政策	応用演習 英語初級 A	
4 限目					演習Ⅰ (阿部ゼミ)	
5 限目						
6 限目 以降						

### ■ 卒業後の進路例

(政策構想コース 国際・比較政策プログラム)

旅行・観光／商社／金融・銀行／  
NGO職員／ジャーナリスト／運輸  
／大学院進学 等

国際性、企画力、  
コミュニケーション  
能力を備えた  
職業人

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限目		環境政策総論		環境の仕事	欧州の 地域・都市政策	
2 限目		マスコミ論Ⅰ	国際政治学	米国の 地域・都市政策	政治過程論	
3 限目			英語Ⅱ SI	交通運輸政策	応用演習 英語初級 A	
4 限目					演習Ⅰ (阿部ゼミ)	
5 限目						
6 限目 以降						

### ■ 卒業後の進路例

(環境創造コース)

環境問題に取り組む企業／旅行・観  
光／商社／地方公務員／メーカー  
／コンサルタント／大学院進学 等

持続可能性を  
構想し、  
多様な主体と  
連携できる  
職業人

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 限目	政策評価論				地域ガバナンス論	
2 限目	ヨーロッパ政治論	マスコミ論Ⅰ			政治過程論	
3 限目	政策過程論	中国政治論			比較社会政策	
4 限目	行政訴訟法	地理学のすすめ			演習Ⅰ (深尾ゼミ)	
5 限目						
6 限目 以降						

### ■ 卒業後の進路例

(地域公共人材コース)

地方公務員／金融・銀行／旅行・観  
光／コンサルタント／運輸(鉄道)  
／協同組合／大学院進学 等

専門性と  
マネジメント能力を  
身につけた  
職業人

## 【具体的なキャリアデザイン・スキル向上に向けての支援】

学生が自身のキャリアを描くなかでのアドバイスや、描いたキャリアに向けての活動を支援します。

### ● 公務員自主勉強会の支援

公務員を目指す学生の自主的な勉強会を組織し、合格者によるアドバイスや教員による活動支援を行います。

### ● 教員によるキャリア相談会の実施

キャリアセンターだけでなく、色々な人に相談しアドバイスが受けられるよう教員によるキャリア相談会を実施します。



公務員を目指す学生のためのキャリアシンポジウム



# 政策学科

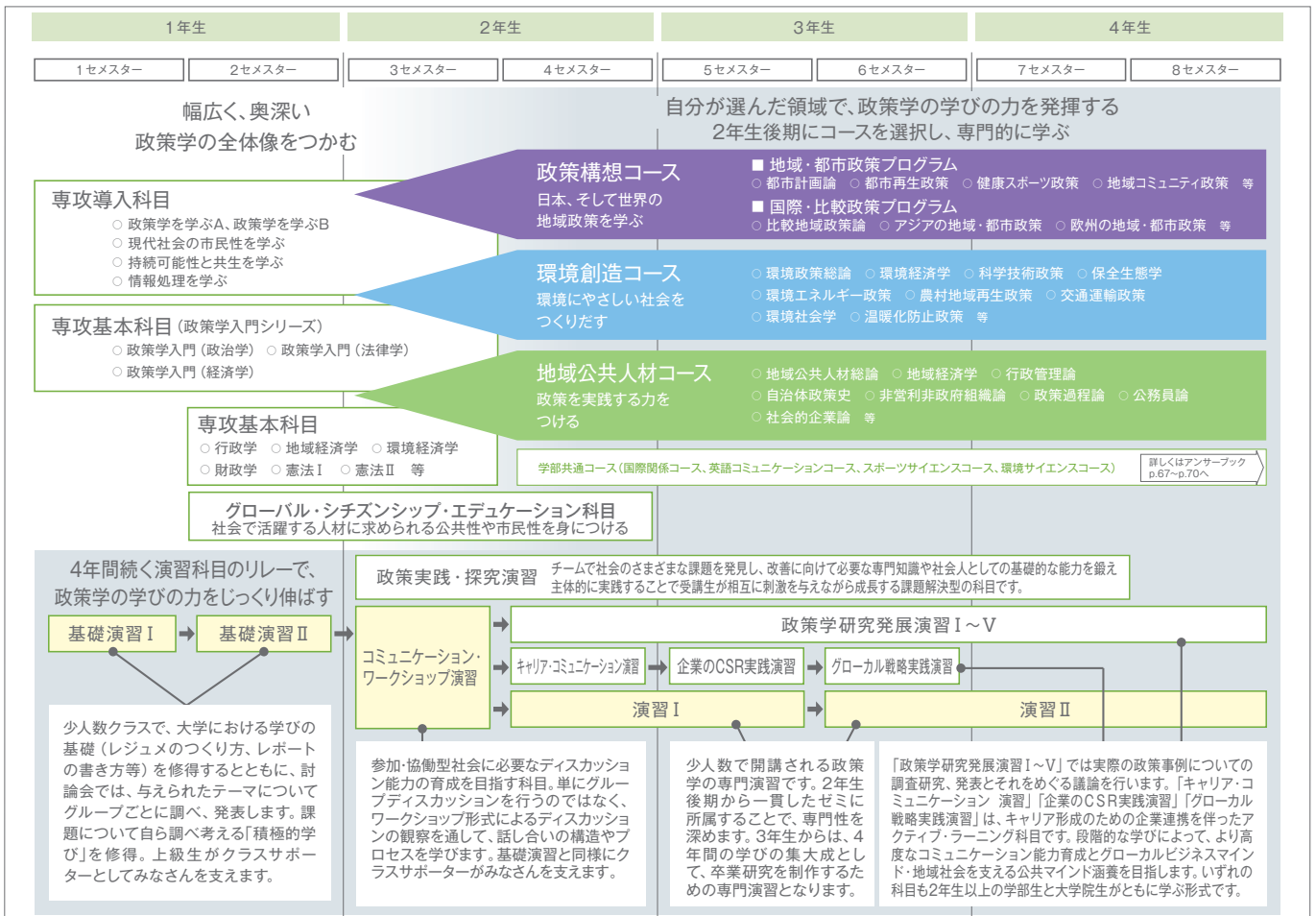
Department of Policy Science

学際的で実地的な最先端の教育プログラムを用意して、  
激変する時代のなかで困難を突破し、未来を切り拓く能力と情熱を育てます。

## Q. 学びのポイントは？

- A.**
- 持続可能な社会の実現のため、課題をこえる「政策」の構想、実践を学ぶ。
  - 明確な目標を持って学びを深める、3つのコース。
  - 世界の地域政策や国際的な取り組みについて理解を深める。
  - 対話や議論を通じたコミュニケーション能力の育成。

## CURRICULUM



- ▶ 取得可能な免許・資格
  - 中学校教諭一種免許状 (社会)
  - 高等学校教諭一種免許状 (公民)
  - 本願寺派教師資格
  - 「地域公共政策士」資格制度「初級地域公共政策士」
- ▶ 目指す職業・進路
  - 自治体職員
  - 国家公務員
  - NPO・NGO団体
  - シンクタンク
  - 民間企業の企画部門
  - 環境問題に取り組む企業
  - メディア系企業 (放送・新聞)
  - 政治家
  - 地方議会議員
  - ジャーナリスト
  - 金融機関
  - 国連等国際機関の職員
  - 社会起業家
  - 大学院進学 等





コミュニケーション・ワークショップ演習

少人数クラスで一から学ぶ、聞く・話す・伝えるの基本。

この講義は受講必修科目です。また、わたしは自分自身のコミュニケーション能力に自信がありませんでした。そこで、コミュニケーションの最低限のスキルを身につけ、少しでも対話技術を改善するという目標を設定して、受講しました。授業ではコミュニケーション能力の奥深さや社会において必要なスキルであることをあらためて学びました。効率の良いグループワークや話し合いのすすめ方も学修しました。また「聞く」「話す」「伝える」という3つの基本を見直すことにより、自分のコミュニケーション方法の問題点を見つけることもできました。講義のなかでムービーをつくる際に、「働くこと」をテーマに社会人にインタビューをしました。働くことについて深く考える機会にもなり、とても刺激的でした。ここで学んだことを今後のキャリア形成に活かしていきたいと思います。少人数クラスで、先輩方が進行役としてついでくださるので、不安なく受講できます。また、社会と自分のつながりについても理解でき、社会人として必要なマナーやスキルを身につけることができます。



村田 和代 教授 (左端) 井上 芳恵 准教授 (右端)  
 辻 淳志さん (左から二人目) 松岡 信哉 准教授 (右から二人目)  
 政策学科 2 年生 (滋賀県 近江兄弟社高校 出身)  
 池田 匡志さん (左から三人目) 山口 結花さん (右から三人目)  
 政策学科 2 年生 (奈良県立高取国際高校 出身)  
 (大阪府 金光八尾高校 出身)

地方財政論

地方分権、地方自治をキーワードに地方財政システムの理論と手法を学ぶ。

日本の地方財政制度に関する基礎知識が修得でき、公務員試験等で出題される基礎的な知識が身につくと考えて、この講義を受講しました。地方自治体の経済活動は、国民経済のなかで大きな比重を占めており、そのあり方はわたしたちの生活に大きな影響を与えていることがよくわかりました。また、地方分権、地方自治をキーワードに地域社会を支える持続可能な地方財政を検討するなかで、地方財政システムを分析する理論と手法の基礎が学べました。



文化・観光政策

文化と観光を切り口に、まちづくりの視野を広げる。

阿部先生はゼミの担当教授でもあり、講義がとても面白く、また文化や観光がどのようにまちづくりとかわっていくのかに興味があったので受講しました。講義を通じて常に身近にある問題や物事に目を向ける大切さを学ぶことができました。また、アートには地域の人々に新たな発見をもたらし、アート特有の影響があることも面白く感じました。この授業ではさまざまな地域で行われている政策を学ぶことで、それぞれの地域の魅力を発見し、まちづくりに対する視野が広がります。



村上 達哉さん 政策学科 2 年生 (京都府 龍谷大学付属平安高校 出身) 只友 景士 教授



中村 花菜さん 政策学科 2 年生 (大阪市立南高校 出身) 阿部 大輔 准教授



## 中森ゼミ

## 社文系学生の産学連携による実践的研究



実際の経営課題に  
挑戦することで、  
自分の強みを活かす。

中森 孝文 教授

社文系を目指すみなさんは、自分の能力を社会でどのように役立たせることができるのか、想像できますか？それを想像できないまま大学生活を送っている社文系学生が少なくありません。ゼミでは、実際の経営課題に対して学生が果敢に挑戦することで、自分の強みが社会でどう活きるのかが理解できます。わたしたちのゼミでは2014年度、京都の酒蔵「佐々木酒造」と共同研究を行い、新飲料『白い銀明水』のマーケティングを手伝いました。飲料の好まれる要素を細かく調査して、どのような風味にして、誰にどう販売すれば良いのかについて、経営学や統計学により明らかにしました。このような取り組みから何が身につくのでしょうか。同じ商品でも、企業が異なれば値段が変わり、同じ選手でも監督次第でやる気や変化することがあるでしょう。ゼミでの実践的な研究により、その原因は何かを明らかにする力が身につきます。



企業の強みを  
実践的に学び、  
政策提言する。

原田 麻奈美さん  
政策学科 3年生  
(京都府立東稜高校 出身)

もともと企業と地域との関係性に関心がありました。中森ゼミを選択したのは、実際に企業に足を運んで自分の目と耳で事実を確かめられる点や、統計学や経営学等のアプローチで企業と地域社会について学べる点に魅力を感じたからです。ゼミでは「無形の強み」をテーマに、人材育成やマーケティング、経営者の経営理念等の目に見えない企業の強みについて研究しています。無形の強みを見抜く力をつけるため、統計学や経営学を学びます。また、企業と共同研究を行い、実施したアンケート調査を分析したうえで、課題解決のための政策提言を行うような実践的な取り組みを行っています。ゼミでの学びを通じて、物事を多面的に見る力がついたと思います。中森ゼミは、学んだことを実践的な場で活かすことができるゼミ。ゼミ全員が常に全力で取り組んでいます。実践的に学びたい人には内容の濃い研究ができると思います。



## 石田ゼミ

### 若者世代と雇用政策について考える。

石田 徹 教授

世界的な経済危機が日本も巻き込み、若者の雇用問題が深刻化し、フリーター等の非正規雇用の増加によって若者間で格差が拡大しています。ゼミでは、こうした現代社会の矛盾が集中する雇用や福祉の問題を中心に、若者世代に焦点を当てて日本の現状を考察します。若者世代はもっと積極的に自己主張し、政府も次代を担う若者世代を重視した政策を打ち出すべきです。グループ学修やフィールドワーク等を通じて、日本の現状を改革するためにはどのような政策が必要なのかを検討し、論議し合います。



## 松浦ゼミ

### コミュニティメディアのあり方を検討、論議する。

松浦 さと子 教授

地域の問題を発見し、解決に至る道を住民が共有するためには、コミュニケーションが大切です。その過程で、コミュニティメディア、すなわち、地域ジャーナリズムを担うコミュニティラジオやコミュニティシネマ、活字メディア、YouTube、FacebookやTwitter等のSNSを、わたしたちはいかに役立て、使いこなせるようになるでしょう。ゼミでは、これらメディアの特徴や影響力の及ぶ範囲や役割を学びます。地域の記憶、記録を蓄積し、地域の誇りや歴史を刻むことすら、メディアで培うことができるかもしれません。文献研究、メディアの見学や実践を重ね、政策形成に寄与するメディアパーソンを目指しましょう。



## 大田ゼミ

### 行政法のテキストを分析・検討する。

大田 直史 教授

ゼミでは、行政法のテキストを分析・検討します。前半では、テキストの内容を読み、関連する重要判例を取り上げます。後半には、各自の関心のある判例について報告してもらい、その報告に基づいて論議を行います。また、論議を通じてその事案にかかわる周辺の法制度についても理解を深め、国・地方公共団体の行政活動の可能性と限界について法的な観点から考察します。行政法の教科書と関連判例を読むことを通じて、行政法の基礎を理解し、行政活動を法的な観点から考えられるようになります。



# Topics

政策学部の活動やニュース。

## 1 政策実践・探究演習

現場での実践により、  
地域で学ぶ、地域から学ぶ



「政策実践・探究演習」は地域の問題や事例に基づき、具体的な問題解決に向けてチームで学修をすすめるPBL(Project Based Learning)科目です。地域における調査研究および政策実践を行い、人類のおよび地域的課題を発見し、その課題を他者と協働して解決することのできる協働社会づくりに不可欠な人材育成を行います。

この講義の特徴は次の3点です。

- ① 複数の個別プロジェクトを束ねた形となっている
- ② 事前事後学習を行い、「協働社会づくりのための政策学基本概念リスト」および「能力構築」の視点からプロジェクト横断的な学びを行う
- ③ 気づきの力、プロジェクトマネジメント能力、思考力、コミュニケーション能力を養成する



### 〈2014年度に実施したプロジェクト〉

- 京都府福知山市政策マーケティングとまちづくり
- 滋賀県守山市市民参加と協働のまちづくり
- 地域・小学校・大学の連携でつくる総合学習
- 若者の政治参加と投票率向上
- 伏見フェスタによる地域活性化
- グリーン&グリーンツーリズムの構築による洲本市の地域再生
- 京都府京丹後市五十河(いかが)地区における地域再生
- ドルトムント工科大学との協働により地域課題解決
- 南京大学金陵学院との地域課題解決を目指した相互訪問

## 2 Ryu-SEI GAP



各チームで制作・発行している冊子

### 地域の課題解決に取り組むプロジェクト活動

Ryu-SEI GAPとは政策学部生が社会の動きや状況を見つ地域に密着して活動し、地域の課題を見つけたり、解決していく取り組みです。

Ryu-SEI GAPは政策学部と「京都市伏見いきいき市民活動センター」を管理しているNPO「きょうとNPOセンター」が協定を結び、センターを学生の地域活動の拠点とさせていただき、センターの職員やそこで活動されている地域の方々との交流をしながら活動をすすめています。

現在、以下の6チームが地域活性のための活動に取り組んでいます！

- あにまもる(保健所での動物の殺処分を減らす！)
- TSUTAまーる(伏見を世界に伝える！)
- 桃園会(伏見桃山の「桃」をよみがえらせる！)
- 伏見わっしょい新党(伏見の農家を盛り上げる！)
- まなサポ+1(中学生に学びの場を提供する！)
- LOCAL ACTIVITIES(地域の高齢者と活動する！)

## 3 基礎演習I・II



### 大学で学ぶための基礎力を身につける

基礎演習は1年生の前期・後期に開講される科目で、大学における学びの基礎(レジュメの作り方、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方、情報リテラシー等)を修得するとともに、課外を含めて大学生活の過ごし方から、大学生に求められる学修態度や姿勢について学びます。

年度末の論文提出を目標に、前期はテーマ決めとレジュメを使ったプレゼンテーションを行い、その技法を学びます。後期ではテーマを絞り込み、論文を作成するとともに、「基礎演習合同討論会」に向けて取り組んでいます。

また、基礎演習では上級生によるクラスサポーター(クラスサポ)がわかりやすく学修の指導をするなど、新入生の学修から学生生活までを頼れる先輩としてサポートします。



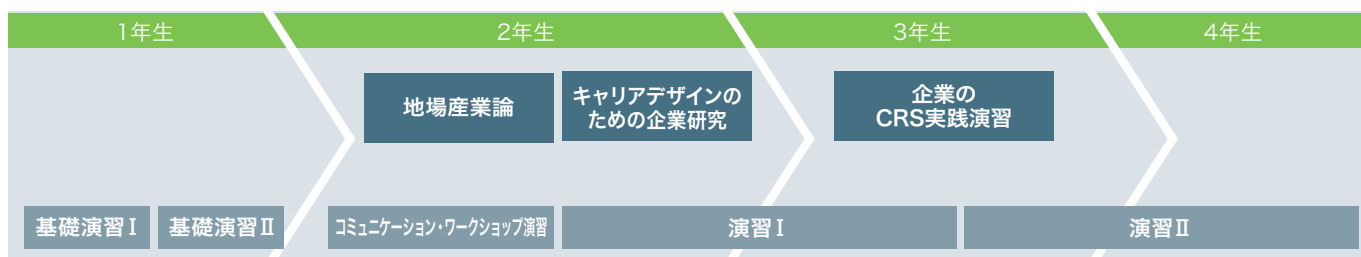
# Career

将来に向けてキャリアデザインを描こう。

## キャリア教育の取り組み

### 就職に強い学生を育てる政策学部独自のキャリア教育

1年生から就職を意識した目標を設定し、そのためにはどのように学んでいくかの動機づけを行う科目を用意しています。さらに2年生からは「働く」ことに対して社会・経済・雇用環境等の観点から理解を深めます。業界研究・企業の現状や展望を理解する科目もあります。



#### 特色ある授業 キャリアデザインのための企業研究

付加価値の高い製品やサービスを提供する企業、変化に対応する老舗企業等の競争力の源泉を考察し、求められる人材像に対する理解を深め、自らのキャリア形成の気づきを与えます。学生が企業を訪問し、強みを見抜き活用策を考えます。発表会では訪問企業の経営者を招き、新規事業の提案と自身のキャリアデザインについての成果を発表します。



#### 支援の取り組み キャリアシンポジウムの開催

##### ●企業を目指す学生のためのキャリアシンポジウム

企業が求める人材像を明らかにし、学生時代の過ごし方を考える機会を提供するために、企業の経営者や人事担当者などによる基調講演や現在企業で活躍している本学OBによるパネルディスカッションを実施しています。



##### ●公務員を目指す学生のためのキャリアシンポジウム

公務員の仕事を理解し、公務員に求められる知識やスキルについて考えるために、国会議員や地方自治体首長経験者を招いての基調講演や、本学OBによる公務員体験談、公務員合格者によるトークセッション、公務員試験対策ガイダンス等を実施しています。



#### スキルアップのための支援

##### ●公務員自主勉強会の支援

公務員試験に向けた学生の自主勉強会を組織し、その支援を行っています。教員による主要科目の学習支援や公務員試験合格者による過去問題研究を通じて自主勉強会を強力にサポートしています。



#### 基礎としての ビジネス知力の把握と養成

##### ●日経TESTの導入

政策学部の1～3年生の全学生を対象に「日経TEST」を実施しています。学生の経済知力の到達度を測り、情報感度の向上、思考力の育成を図ります。ビジネス知識に優れ、考える力を備えた就職に強い政策学部生の育成を目指します。

#### 地域資格制度について

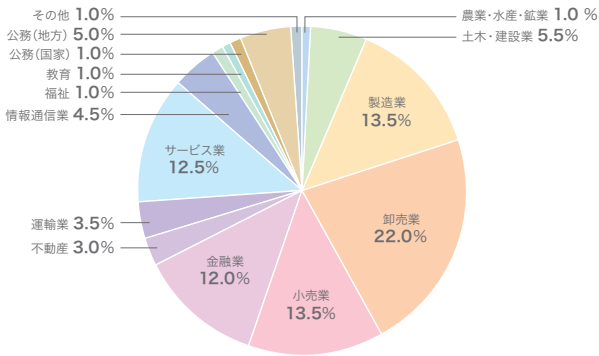
##### ●「地域公共政策士」資格

地域公共政策の担い手に求められる人材育成のため、2011年度から京都8大学が連携してスタートした京都発の職能資格「地域公共政策士」。政策学部では通常授業の履修で「初級地域公共政策士」の資格取得が可能です。

# 就職状況

(2014年度卒業生)

## 政策学科



## 主な就職先

- タマホーム株式会社
- 大和ハウス工業株式会社
- 住友不動産株式会社
- 株式会社伊藤園
- 沢の鶴株式会社
- 久光製菓株式会社
- 東海旅客鉄道株式会社 (JR東海)
- ダイワボウ情報システム株式会社
- 株式会社平和堂
- 生活協同組合コープこうべ
- 青山商事株式会社
- 株式会社コメリ
- 株式会社みずほフィナンシャルグループ
- 株式会社関西アーバン銀行
- 株式会社紀陽銀行
- 株式会社京都銀行
- 株式会社三井住友銀行
- 株式会社中京銀行
- 株式会社南都銀行
- 京都信用金庫
- 大和証券株式会社
- 野村證券株式会社
- 明治安田生命保険相互会社
- 株式会社マイナビ
- 近畿日本ツーリスト株式会社
- 防衛省
- 京都市役所
- 京都府警察
- 大阪府役所
- 大阪府警察
- 大阪府庁
- 津市役所
- 等

## 内定者 VOICE

### 内定先 京都市職員 上級I 一般事務職 (行政)



藤井 勇也さん  
政策学科 4年生  
(京都府 龍谷大学付属平安高校 出身)

問題解決の糸口を見つけ出す力で、何事にも積極的に挑戦したい。

政策学部では、市民と行政の協働型まちづくりや地域間連携等の視点を学びました。社会には多くの問題がありますが、学部の学びでは理論だけでなく、問題解決のための糸口を見つけ出す力も得ることができました。ゼミの取り組みのなかでお会いした京都市職員の働く姿に憧れたのが、内定先を志望した理由です。就職活動は、公務員試験に絞って準備をすすめました。大学での学びや経験を大切に、何事にも積極的に挑戦したいです。

### 内定先 東海旅客鉄道株式会社



西嶋 望さん  
政策学科 4年生  
(奈良県 奈良育英高校 出身)

大学で身につけた力を発揮し、責任を持って働きたい。

わたしは環境サイエンスコースに所属し、野外実習等を通じて環境問題の実態を学びました。就職活動は解禁前から自己分析や業界研究を始め、沢山の会社を受けることで社会や仕事について学ぶことができました。そのなかでお客様の安全と信頼を第一に考えている志望先と自分の働くというビジョンが一致しました。大学では広い視野を持ち、自ら考え行動する力を身につけたので、自分の行動に責任を持って働きたいと思います。

### 内定先 株式会社京都銀行



森 憲人さん  
政策学科 4年生  
(京都府 龍谷大学付属平安高校 出身)

関西最大規模の地銀で、地域との懸け橋になりたい。

学部では、歴史的視点と制度的視点を踏まえて問題をとらえることが政策学の基礎であることを学びました。政治や経済等の多様な視点からアプローチすることで、より深く問題を理解できるようになりました。京都銀行のインターンシップに参加し、京都銀行が関西で最大の規模を誇り、幅広い企業とのネットワークがあることも知り、自分の能力を発揮したいと考えて志望しました。地域と銀行をつなぐ懸け橋のような存在になりたいです。

### 内定先 生活協同組合コープこうべ



山崎 基さん  
政策学科 4年生  
(兵庫県立尼崎小田高校 出身)

地域と人の大切さを学び、志望動機につながりました。

政策学部は座学だけでなく、フィールドワークの授業もあり、楽しみながら学ぶことができました。その学びを通じて、地域の結びつき、人と人とのつながりの大切さを知り、それが小売業として地域に愛される内定先を志望するきっかけになりました。就活中は梅田キャンパスをよく利用し、助かりました。入社後は笑顔と真心で、お客様との信頼関係を築きたいです。



# 教員紹介

多彩な教授陣が学修を支援します。

①主な担当科目・分野 ②研究テーマ

※詳細は「龍谷大学Webシラバス」や「龍谷大学研究者データベース」で見ることができます。

政策学科



**青山 公三**  
①都市と地域と人々  
②市民参加論、まちづくり、エリアマネジメント、地域環境計画、広域連携、広域管理



**大田 直史**  
①行政法、地方自治法  
②行政法、行政手続法、災害対策法制



**白石 克孝**  
①比較地域政策論  
②地域政策の転換を理論的に考察し、変革的な政策を提示する。



**松浦 さと子**  
①社会学、メディア論、コミュニティメディア政策  
②サードセクターを含む対話のためのメディア、コミュニティの記憶の共有、ジェンダーとメディア



**阿部 大輔**  
①都市計画論、文化観光政策  
②都市計画・アーバンデザイン、まちづくり



**大矢野 修**  
①自治体政策史  
②自治体政策史、自治体計画論



**只友 景士**  
①経済学、財政学、地方財政論  
②ジェンダー予算、沖繩における持続可能な発展



**松岡 信哉**  
①演習I・II、英語I・II・III  
②英語、英米文学、英語教育



**石田 徹**  
①政治学、比較社会政策  
②先進諸国における福祉・雇用政策の比較研究



**岡本 健資**  
①仏教の思想  
②インド仏教説話研究、古代インドの倫理思想研究



**谷垣 岳人**  
①環境論、生態学A、環境フィールドワーク  
②昆虫における種多様性の進化過程と多様性の維持機構  
最近では里山の生物多様性



**的場 信敬**  
①地域ガバナンス論  
②地域ガバナンス論、サードセクター研究



**井上 芳恵**  
①地域コミュニティ政策  
②都市計画・地域居住学、地域活性化、地域コミュニティ、大学と地域連携



**奥野 恒久**  
①憲法、人権論A・B  
②憲法学、民主主義論、平和的生存権、アイヌ民族の文化享有権



**土山 希美枝**  
①公共政策学  
②公共政策、地方自治、社会の変動と政治の関係を研究



**村田 和代**  
①コミュニケーション系科目、グローバル戦略実践演習  
②社会言語学、言語の対人関係機能面（ボライトネス）について



**今里 佳奈子**  
①行政学、地方自治論  
②行政学、地方自治、変動期におけるわが国福祉レジームの再編に関する研究など



**北川 秀樹**  
①環境学、環境政策論  
②複合新領域、環境学、環境法政策、中国の環境問題



**中村 剛治郎**  
①地域経済学、地域経済政策  
②地域経済学、地域政策、地域政治経済学、比較地域制度論



**村田 健三郎**  
①健康スポーツ政策  
②多様なニーズに応じた参加・共同型による健康スポーツ政策



**碓井 智子**  
①コミュニケーションワークシヨップ演習、英語I,II  
②認知言語学：空間認知方法と時間認知方法について



**金 紅実**  
①環境経済学、環境政策  
②環境財政、環境コスト負担原則、中国の環境経済政策



**中森 孝文**  
①地場産業論、キャリアデザインのための企業研究  
②知的資産経営、産業政策、中小企業、産学官連携



**矢作 弘**  
①都市政策系科目  
②人口減少下の都市縮退に関する国際比較研究



**大石 尚子**  
①農村地域再生政策  
②先進諸国における地域ソーシャル・イノベーション実践研究



**清水 万由子**  
①環境政策総論、環境社会学  
②持続可能な地域づくり（公害からの地域再生、自然再生）



**深尾 昌峰**  
①非営利非政府組織論  
②非営利活動を社会的に支える政策・実践研究

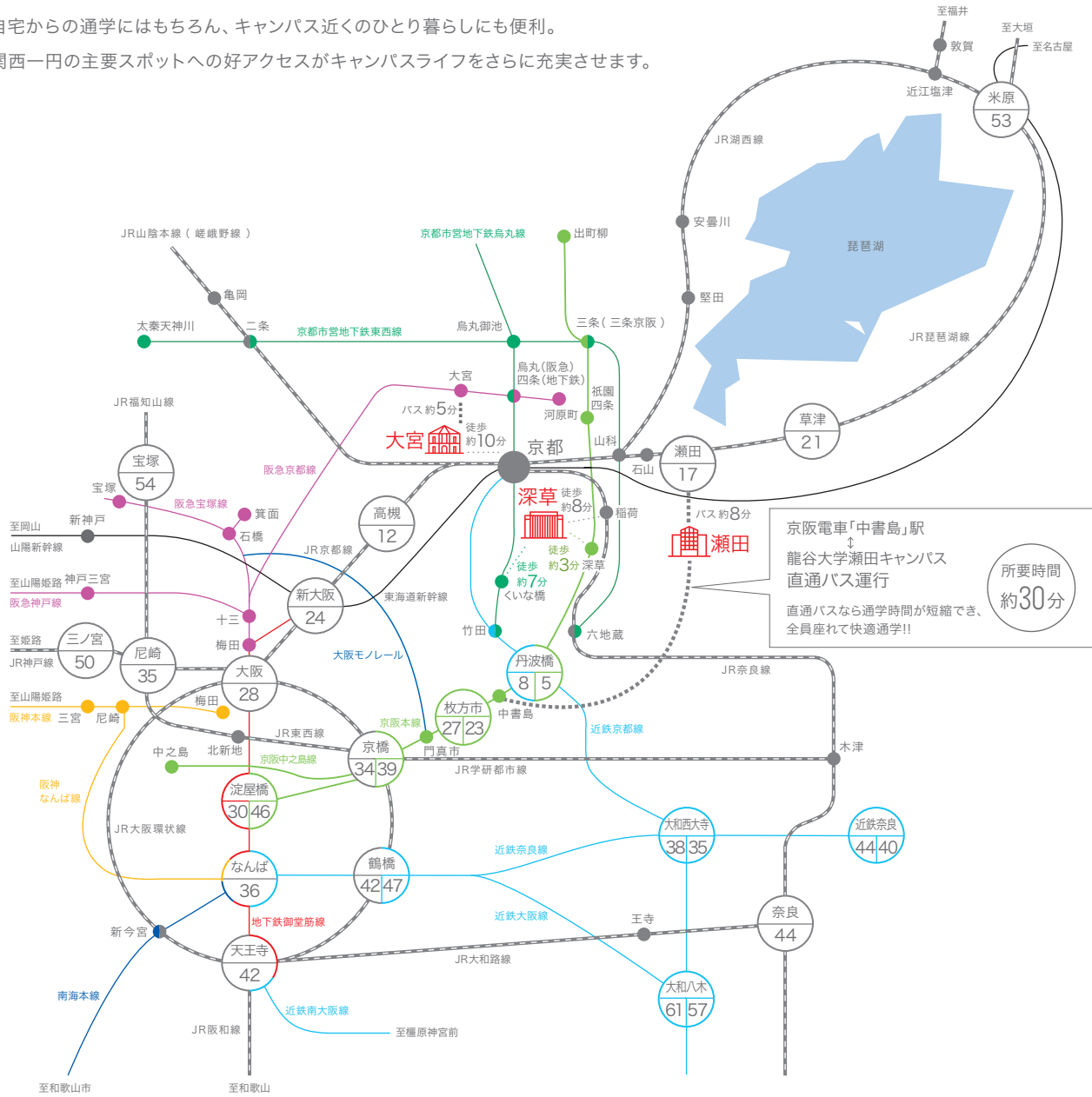
# Access Guide

京都・滋賀3つのキャンパスは関西一円から好アクセス。

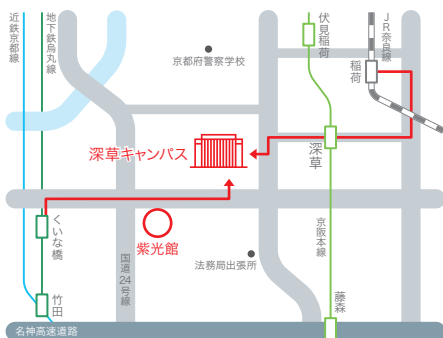
京都・滋賀の3拠点にあるキャンパスは、大阪・奈良・神戸からも抜群のアクセス環境が魅力です。

自宅からの通学にはもちろん、キャンパス近くのひとり暮らしにも便利。

関西一円の主要スポットへの好アクセスがキャンパスライフをさらに充実させます。



## 深草キャンパス (京都市)



- JR奈良線「福荷」駅下車、南西へ徒歩約8分
- 京阪本線「深草」駅下車、西へ徒歩約3分
- 京都市営地下鉄烏丸線「くいな橋」駅下車、東へ徒歩約7分

- JR線
- JR新幹線
- 近畿日本鉄道
- 阪急電鉄
- 南海電鉄
- 京阪電鉄
- 京都市営地下鉄
- 大阪市営地下鉄御堂筋線
- 阪神電鉄
- ..... バス

○ 駅名  
— JR「京都」駅までの乗車時間(分)

○ 駅名  
— 京阪「深草」駅までの乗車時間(分)  
— JR「京都」駅までの乗車時間(分)

駅名に付記した時間は、JR「京都」駅、京阪「深草」駅までの最短乗車時間のめやすを記しております。

乗り換え等にかかる時間は含んでいません。

また、時間帯によって変わることがありますのでご注意ください。



[www.policy.ryukoku.ac.jp](http://www.policy.ryukoku.ac.jp)



龍谷大学 政策学部  
RYUKOKU UNIVERSITY

深草キャンパス 京都市伏見区深草塚本町67  
Tel 075-645-2285 Fax 075-645-2101  
seisaku@ad.ryukoku.ac.jp

